



読書の秋

~自分の世界を広げよう~

2学期が始まりました。2学期はさまざまな学校行事が行われ、大変忙しいとは思いますが、ぜひ読書の時間を作ってほしいと思います。読書に関する行事として、10月27日~11月9日に読書週間、11月15日にはホームルームでの読書会やビブリオバトルを予定しています。

また、美山祭では、図書委員会でおすすめの本の展示を行いますので、ぜひ見て下さい。

7月の読書月間では、多くの方が図書館で本を借りてくれました。夏休み前に借りた図書館の本は、返却期限を過ぎています。まだ返却していない人は、大至急返却して下さい。

図書館クイズ当選者発表

校内読書月間中に行なった、図書委員会企画の図書館クイズには、72件の応募がありました。たくさんの参加ありがとうございます。全問正解者12名の中から、抽選で6名が選ばれました。当選者は下記の通りです。当選おめでとうございます。

- 2-2 池部梨子さん
- 2-3 小野光輝さん
- 2-4 藤野功大さん
- 1-1 松下文香さん
- 1-1 後藤るなさん
- 1-2 高田直斗さん



クイズの景品は、手作りブックカバーなどから選べます。早めに図書館まで取りに来て下さい。

図書委員おすすめ本

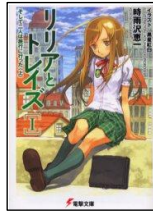
図書委員によるオススメの本の紹介コーナーです。図書館にある本なので、気軽に読んでみて下さい。



(ほるぷ出版)



(角川書店)



(メディアワークス)

『ワンダー』 R・J・パラシオ著 中井はるの訳

私のおすすめの本は『ワンダー』です。この本の主人公は、他の人とはちょっと違うところがある男の子です。さまざまな差別や偏見に苦しむこともありますが、家族や友人に助けられながら、頑張っている姿にとっても勇気づけられる一冊です。ぜひ読んでみて下さい。(1-1 伊地知)

『氷菓』 米澤穂信著

この作品は日常で起こる様々な不思議な出来事や謎を、古典部に所属する4人を中心に解決していく青春ミステリーです。解決していく事件は日常の中で起こる謎で、難しいものではないので、誰でも楽しんで読める作品だと思います。(1-3 梅木)

『リアとトレイズ』 時雨沢恵一著

15歳のリアの所に夏休みを利用してきた幼なじみのトレイズ。トレイズに素っ気なくするリアだったが突然の訓練により家を空けることになった母アリソンの勧めもあり、トレイズと二人で旅行に行くことになる。しかしその旅行は楽しいとはかぎらず…と、ハラハラする本なので、ぜひ皆さんに読んでほしいです。(1-3 久保)



おすすめの新着図書

『星に願いをそして手を』 青羽悠著

中学三年生の夏休み。宿題が終わっていない祐人は、幼馴染みの薫、里奈、春樹とともに、毎年恒例の勉強会を行っていた。小学校からずっと一緒に彼らを繋いでいたのは宇宙への強い好奇心だった。やがて大人になり、それぞれの道を歩んでいた4人は、大切な人の死をきっかけに、集まることになる――。



(集英社)

『かがみの孤城』 辻村深月著



(ポプラ社)

どこにも行けず部屋に閉じこもっていたところの目の前で、ある日突然、鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先の世界には、似た境遇の7人が集められていた。胸に秘めた願いを叶えるため、7人は隠された鍵を探す…。

『劇場』 又吉直樹著

演劇を通して世界に立ち向かう永田と、その恋人の沙希。夢を抱いてやってきた東京で、ふたりは出会った一。又吉直樹の作家としての原点にして、書かずにはいられなかった、たったひとつの不器用な恋。夢と現実のはざまにもがきながら、かけがえのない大切な誰かを想う、切なくも胸にせまる恋愛小説。



(新潮社)

『アキラとあきら』 池井戸潤著



(徳間書店)

零細工場の息子・山崎瑛（あきら）と大手海運会社東海郵船の御曹司・階堂彬（あきら）。生まれも育ちも違うふたりは、互いに宿命を背負い、自らの運命に抗って生きてきた。ふたりの数奇な運命が出会うとき、人生を賭した戦いが始まる…。

映画を読み 図書館へ



『君の睨臓をたべたい』 住野よる著

(新潮社)

2017年7月 映画化!



主人公が偶然拾った1冊の文庫本。それはクラスメイトが綴った秘密の日記帳だった――。タイトルからは想像できない爽やかな読後感。高校生の二人の関係がせつなくて、泣ける青春小説。映画は原作にはない12年後のストーリーが描かれています。

花言葉

知ってますか？

ラン 「熱烈」



ラン全体に「熱烈」という花言葉があります。また、野草のランは「美人」という花言葉になっています。

『花ことば』(池田書店)より

ちよつと一息

詩の世界へ

表札

石垣りん

自分の住むところには
自分で表札を出すにかぎる。

自分の寝泊りする場所に
他人がかけてくれる表札は
いつもろくなことはない。

病院へ入院したら
病室の名札には石垣りん様と
様が付いた。

旅館に泊っても
部屋の外に名前は出ないが
やがて焼場のかまに入ると
とじた扉の上には

石垣りん殿と札が下がるだろう
そのとき私がこぼめるか？

様も
殿も
付いてはいけない、

自分の住む所には
自分の手で表札をかけるに限る。

精神の在り場所も
ハタから表札をかけられてはならない
石垣りん
それでよい。

『ポケット詩集』 田中和雄編 (童話屋)